

高岡万葉セミナー

● とき 令和4年9月3日(土) 10時20分～16時15分

● ところ 高岡市万葉歴史館・講義室

※内容など変更がある場合があります。ホームページ等でご確認ください。

● 開講式 10:20～10:30

● 第1講 10:30～12:00



斎藤茂吉と万葉集

斎藤茂吉が万葉集から影響を受けていたことはよく知られている。若き日から『万葉秀歌』に至るまでの茂吉の万葉集の解釈と、科学の流行した時代的背景を見てゆきたい。また、茂吉独自の万葉集の解釈から導き出された作歌への影響を考えたい。

田中教子氏(歌人)

● 昼食 12:00～13:00

● 第2講 13:00～14:30



伊勢の狭残と美濃の多芸

天平十二年(740)十月に、聖武天皇は平城宮を出発し、伊賀—伊勢—美濃—近江—山背^{やましろ}と行幸し、その年末に久迹宮^{くのにみや}に落ち着き、遷都となります(三年有余の久迹京の始まり)。この行幸に内舎人^{うどねり}として従駕した二十三歳(通説)の相伴家持の歌稿が『万葉集』巻第六に収載されています。その中の狭残行宮での歌(1032—1033)と多芸行宮での歌(1035)に視点を絞り、相伴東人^{あずまひと}の歌(1034)と共に見てまいりたいと思います。

廣岡義隆氏(三重大学名誉教授)

● 第3講 14:45～16:15



遠江・駿河・伊豆三国と万葉歌 平舘英子氏(日本女子大学名誉教授)

東海地方において、『延喜式』が東海道の中国と位置づけるのは遠江・駿河・伊豆と甲斐の国々である。その中、海に面する三国は、現在静岡県に属する。大宝二年太上天皇(持統)の行幸は参河国までで、遠江国には及ばない。『万葉集』巻十四の東歌^{あずまうた}は、相聞及び譬喩歌の部が遠江国の歌から始まる。当時の都人の意識には、東の国は遠江以东とあったのであろう。その地方の海に面する遠江・駿河・伊豆三国の万葉歌の特質を探りたい。

◆最寄り駅JR氷見線 伏木駅から

【当館までの距離 約1.5km】 タクシーで約5分、徒歩約25分

◆JR・あいの風とやま鉄道 高岡駅から

【バス】高岡駅前(北口)のりば④

加越能バス伏木方面(西回り)・伏木方面(東回り)のいずれかに乗車(約30分)して「伏木一の宮バス停」で下車、徒歩約7分

【タクシー】約20分

※「北陸新幹線 新高岡駅」と「JR・あいの風とやま鉄道 高岡駅」の間は、10分間隔でバス便があります。(所要時間約10分)

◆お車で

【能越自動車道】高岡北インターから約20分、高岡インターから約25分

【北陸自動車道】小杉インターから約35分、高岡砺波スマートインターから約35分

新型コロナウイルス感染予防・拡大防止対策へのご協力お願い

- 1 次の方につきましては、来館・セミナー受講の自粛の協力をお願いします
・咳や発熱など、風邪の症状がみられる方(体調不良の方)
- 2 来館・セミナーの受講の際には、以下の点にご協力をお願いします
・必ずマスクの着用をお願いします
・入館前のアルコール消毒による手の消毒
・咳やくしゃみをされる際の『咳エチケット』
・講義室は換気に努めますので服装等にご留意願います